

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
プログラム名	欧米言語文化学プログラム

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	プログラムのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>KUGS(金沢大学グローバルスタンダード)をふまえ、人文学類では次に挙げるすべての能力と資質を以て新たな情報や価値を創造し社会に貢献できる学生に学士(文学)の学位を授与する。</p> <p>1. 豊かな教養と課題発見能力 人間性と社会性に富む豊かな教養を有し、常に知的好奇心を持ち続け、人間や社会、環境をめぐる諸課題を自ら発見することができる。(※KUGS1.5に対応)</p> <p>2. 社会的応用性を備えた専門性 各プログラムにおける専門的な学習内容と、文献読解にとどまらない固有の方法を、系統立てて理解・習得し説明できるとともに、それを活用して現代社会における多様な課題の具体的な解決に忍耐強く主体的に取り組んでいくことができる。(※KUGS1.2.5に対応)</p> <p>3. 適切かつ主体的な情報収集と的確な自己表現の能力 多様な情報、文献、資料、史料の中から必要なものを適切かつ主体的に収集、分析、統合し、自らの見解や価値観を形成するとともに、明晰な論理構成能力と高い文章表現力で自己を説得的かつ的確に表現することができる。(※KUGS3に対応)</p> <p>4. 多面的視野による他者理解と柔軟なコミュニケーション能力 多面的視野を持って、異なる文化や伝統も含んだ他者の多様な価値観や見解に対する高い関心と深い理解を有し、日本語そして外国語を用いて異論を有する他者と柔軟かつ適切に意思の疎通を図ることができる。(※KUGS4に対応)</p>	<p>欧米言語文化学プログラムでは、人間の言語・文化・思想・歴史・芸術・社会・生活などについて探究する人文諸学の成果を学び、とりわけ英語圏・ドイツ語圏・フランス語圏を中心とした欧米言語文化学プログラムの専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような欧米言語文化学プログラムの学習成果を上げた者とするとする。</p>

学類・プログラムのCP(カリキュラム編成方針)	プログラムの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
<p>【学類のCP】 0.1にかかげる能力と資質の育成を実現するために、以下のような教育課程の編成と実施の方針を決定する。 1. 学士課程4年間を通じて、KUGSに対応したGS科目や人文学類を体系的に履修して、学士課程教育の基盤となる幅広い豊かな教養を身につける。またGS言語科目(英語)のみならず、必ず初習言語をひとつ以上選択することで、外国語コミュニケーション能力、異文化への関心と理解力を養う。(※DP1)</p> <p>2. 1年次より人間社会学域GS科目と人文学基礎科目を履修し、前期では大学・学際論、ジェンダー論、文化概説、文学概論、異文化理解、法政基礎論、地域創造学、金融リテラシー等、人文科学、社会科学の基本的問題や方法論を、後者では人文諸学の基礎研究内容、研究法、そして基礎知識をそれぞれ幅広く修得し、人間社会学域および人文学類での専門教育における基盤的教養を身につける。(※DP2)</p> <p>3. 英語については、1年次でのGS言語科目の履修を踏まえさらに2年次で学域GS言語科目、また、各プログラムの専門科目における英語演習を履修することで、継続的に英語運用能力の向上を図る。(※DP4)</p> <p>4. 専門科目は、講義科目と演習・実習・実務科目に大別されるが、いずれのプログラムの講義・演習等でも、個人あるいはグループ単位での口頭発表、報告書(レポート)作成、討論、読書など学生の能動的・主体的な授業参加を求めることと、双方向的な授業を進めることで、専門知識の獲得に加えて、自己表現、他者理解、コミュニケーション等の能力を養っている。(※DP3.4)</p> <p>5. 4年次には各プログラムにおいて卒業論文演習をして卒業論文を作成する。卒業論文は、共通教育と専門教育の集大成となるもので、1年次から4年次まで習得してきた基礎的教養と専門教育における学習成果を総合しながら、学生自らが課題やテーマを設定し、データ資料・史料等を収集、分析、読解し、自己の見解を明確かつ論理的に表現していく能力の養成ができたかどうかを最終的に確認するのである。あわせて口頭試問では、自己の所説の説明に加えて批評・異論に耳を傾けこれに柔軟に対応できる能力も評価される。</p> <p>【プログラムのCP】 1年次には、GS言語科目(英語)に加えて初習言語(ドイツ語・フランス語など)を学び、本プログラムで専攻する欧米言語習得のための基礎固めを行う。2年次からは英語学・ドイツ語学・フランス語学の概説や英米文学・ドイツ文学・フランス文学の歴史などのプログラム専門科目(講義・演習科目)を組み合わせて履修することにより、言語学と文学研究全般の基礎知識を幅広く身につけると同時に、欧米言語文化学の理論的知識や方法論、あるいは比較・対照研究のあり方を習得する。加えて年次進行に合わせ習熟度を高めていくコミュニケーション系科目を通じて、各言語によるコミュニケーション能力のさらなる向上を図る。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B・C・D」を中心に資料収集と整理の技術を磨く。また、その資料をもとに意見を組み立て発表する能力を養い、自分の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。</p>	<p>コアと文学の科学的探究にとどまらず学際的・分岐的のコミュニケーション能力をもつ。 外国事情に関心を持ち、外国語のコミュニケーション能力をもち、 複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。 ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 討論やプレゼンテーションの経験を通じて、意見発表能力を磨く。 原典を講読することにより、翻訳では理解し難い異文化の特徴を理解し、学際的深化を実現する。 学際的分野の知の集積に触れ、事象に対する多様な考え方を知るとともに、人文学に隣接する複眼的な見方を涵養する。</p>

プログラムのカリキュラム

科目番号	科目名	履修の学年	学 年	Q 1	Q 2	Q 3	Q 4								
21428	英語学概説A1	英語学の研究分野一般についての理解を深め、自らの関心領域を特定する。 英語学の基本概念や考え方を、具体的な言語現象の分析を通して理解する。	2~4	*			(*)	◎					◎		○
21429	英語学概説A2	英語学の研究分野一般についての理解を深め、自らの関心領域を特定する。 英語学の基本概念や考え方を、具体的な言語現象の分析を通して理解する。	2~4		*		(*)	◎					◎		○
21442	英語学概説B1	英語学の研究分野一般についての理解を深め、自らの関心領域を特定する。 英語学の基本概念や考え方を、具体的な言語現象の分析を通して理解する。	2~4	*			(*)	◎					◎		○
21443	英語学概説B2	英語学の研究分野一般についての理解を深め、自らの関心領域を特定する。 英語学の基本概念や考え方を、具体的な言語現象の分析を通して理解する。	2~4		*		(*)	◎					◎		○
42284	英語学総論1	英語学の各領域に関する総合的な知識を習得し、自らの関心領域を特定する。	2~4	*			(*)	◎					◎		○
42285	英語学総論2	英語学の各領域に関する総合的な知識を習得し、自らの関心領域を特定する。	2~4		*		(*)	◎					◎		○
42857	英語学講義A1	英語学における基礎知識を身につける。	2~4	*			(*)	◎		△			◎		○
42858	英語学講義A2	英語学における基礎知識を身につける。	2~4		*		(*)	◎		△			◎		○
42199	英語学講義B1	英語学における基礎知識を身につける。	2~4	*			(*)	◎		△			◎		○
42200	英語学講義B2	英語学における基礎知識を身につける。	2~4		*		(*)	◎		△			◎		○
42851	英文法講義A1	英文法に関する先行研究からの洞察を踏まえて、英文法の基本的概念の理解を深め、英語力、文法力の向上を目指す。	2~4	*			(*)	◎		△			◎		○
42852	英文法講義A2	英文法に関する先行研究からの洞察を踏まえて、英文法の基本的概念の理解を深め、英語力、文法力の向上を目指す。	2~4		*		(*)	◎		△			◎		○
42201	英文法講義B1	英文法に関する先行研究からの洞察を踏まえて、英文法の基本的概念の理解を深め、英語力、文法力の向上を目指す。	2~4	*			(*)	◎		△			◎		○
42202	英文法講義B2	英文法に関する先行研究からの洞察を踏まえて、英文法の基本的概念の理解を深め、英語力、文法力の向上を目指す。	2~4		*		(*)	◎		△			◎		○
42859	英米文学特殊講義A1	英米の代表的な文学作品を精読することを通じ、文学の諸問題について理解を深める。	2~4	*			(*)	◎		○			◎		○
42860	英米文学特殊講義A2	英米の代表的な文学作品を精読することを通じ、文学の諸問題について理解を深める。	2~4		*		(*)	◎		○			◎		○
42861	英米文学特殊講義B1	英米の代表的な文学作品を精読することを通じ、文学の諸問題について理解を深める。	2~4	*			(*)	◎		○			◎		○
42862	英米文学特殊講義B2	英米の代表的な文学作品を精読することを通じ、文学の諸問題について理解を深める。	2~4		*		(*)	◎		○			◎		○
21430	英米文学史A1	英米文学の歴史について理解を深める。	2~4	*			(*)	◎		○			◎		○
21431	英米文学史A2	英米文学の歴史について理解を深める。	2~4		*		(*)	◎		○			◎		○
42853	英米文学史B1	英米文学の歴史について理解を深める。	2~4	*			(*)	◎		○			◎		○
42854	英米文学史B2	英米文学の歴史について理解を深める。	2~4		*		(*)	◎		○			◎		○
42855	北米文化論1	英語圏文学・文化の歴史的成立過程をジェンダー・階級・人種の視点から考察し、現代に通ずる課題を抜き出していけるようにする。	2~4	*			(*)	◎		○			◎		○
42856	北米文化論2	英語圏文学・文化の歴史的成立過程をジェンダー・階級・人種の視点から考察し、現代に通ずる課題を抜き出していけるようにする。	2~4		*		(*)	◎		○			◎		○
42863	英語圏文学特殊講義1	英語圏の代表的な文学作品を精読することを通じ、文学の諸問題について理解を深める。	2~4	*			(*)	◎		○			◎		○
42864	英語圏文学特殊講義2	英語圏の代表的な文学作品を精読することを通じ、文学の諸問題について理解を深める。	2~4		*		(*)	◎		○			◎		○
42871	英語圏文学演習A1	英語圏の文学作品を精読し、みずから作品を解釈してその内容を発信する能力を身につける。	2~4	*			(*)	◎		○			◎		○
42872	英語圏文学演習A2	英語圏の文学作品を精読し、みずから作品を解釈してその内容を発信する能力を身につける。	2~4		*		(*)	◎		○			◎		○
42252	英語圏文学演習B1	英語圏の文学作品を精読し、みずから作品を解釈してその内容を発信する能力を身につける。	2~4	*			(*)	◎		○			◎		○
42253	英語圏文学演習B2	英語圏の文学作品を精読し、みずから作品を解釈してその内容を発信する能力を身につける。	2~4		*		(*)	◎		○			◎		○
42254	英語圏文学演習C1	英語圏の文学作品を精読し、みずから作品を解釈してその内容を発信する能力を身につける。	2~4	*			(*)	◎		○			◎		○
42255	英語圏文学演習C2	英語圏の文学作品を精読し、みずから作品を解釈してその内容を発信する能力を身につける。	2~4		*		(*)	◎		○			◎		○
42873	英米文学演習A1	英米の文学作品を精読し、みずから作品を解釈してその内容を発信する能力を身につける。	2~4	*			(*)	◎		○			◎		○
42874	英米文学演習A2	英米の文学作品を精読し、みずから作品を解釈してその内容を発信する能力を身につける。	2~4		*		(*)	◎		○			◎		○
42217	英米文学演習B1	英米の文学作品を精読し、みずから作品を解釈してその内容を発信する能力を身につける。	2~4	*			(*)	◎		○			◎		○

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
プログラム名	欧米言語文化学プログラム

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	プログラムのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>KUGS(金沢大学グローバルスタンダード)をふまえ、人文学類では次に挙げるすべての能力と資質を以て新たな情報や価値を創造し社会に貢献できる学生に学士(文学)の学位を授与する。</p> <p>1. 豊かな教養と課題発見能力 人間性や社会性に富む豊かな教養を有し、常に知的好奇心を持ち続け、人間や社会、環境をめぐる諸課題を自ら発見することができる。(≧KUGS1.5に対応)</p> <p>2. 社会的応用性を備えた専門性 各プログラムにおける専門的な学習内容と、文献読解にとどまらない個々の方法を、系統立てて理解・習得し説明できるとともに、それを活用して現代社会における多様な課題の具体的な解決に忍耐強く主体的に取り組んでいくことができる。(≧KUGS1.2.5に対応)</p> <p>3. 適切かつ主体的な情報収集と的確な自己表現の能力 多様な情報、文献、資料、史料の中から必要なものを適切かつ主体的に収集、分析、統合し、自らの見解や価値観を形成するとともに、明晰な論理構成能力と高い文章表現力で自己を説得的かつ的確に表現することができる。(≧KUGS3に対応)</p> <p>4. 多面的視野による他者理解と柔軟なコミュニケーション能力 多面的視野を持って、異なる文化や伝統も含んだ他者の多様な価値観や見解に対する高い関心と深い理解を有し、日本語そして外国語を用いて異論を有する他者とも柔軟かつ適切に意思の疎通を図ることができる。(≧KUGS4に対応)</p>	<p>欧米言語文化学プログラムでは、人間の言語・文化・思想・歴史・芸術・社会・生活などについて探究する人文諸学の成果を学び、とりわけ英語圏・ドイツ語圏・フランス語圏を中心とした欧米言語文化学プログラムの専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような欧米言語文化学プログラムの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・プログラムのCP(カリキュラム編成方針)	プログラムの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
<p>【学類のCP】 0)にかかげる能力と資質の達成を実現するために、以下のような教育課程の編成と実施の方針を策定する。 1. 学士課程4年間を通じて、KUGSに対応したGS科目や人文学科を体系的に履修して、学士課程教育の基盤となる幅広い豊かな教養を身につける。またGS言語科目(英語)のみならず、必ず初習言語をひとつ以上選択すること。外国語コミュニケーション能力、異文化への関心と理解力を養う。(≧DP1.2) 2. 1年次より人間社会学域GS科目と人文学基礎科目を履修し、前期では大学・学際論、ジェンダー論、文化概説、文学概論、異文化理解、法政基礎論、地域創造学、金融リテラシー等、人文科学、社会科学の基本的問題や方法論を、後者では人文諸学の基礎研究内容、研究法、そして基礎知識をそれぞれ幅広く修得し、人間社会学域および人文学類での専門教育における基盤的教養を身につける。(≧DP1.2) 3. 英語については、1年次でGS言語科目の履修を踏まえさらに2年次で学域GS言語科目、また、各プログラムの専門科目における英語演習を履修することで、継続的に英語運用能力の向上を図る。(≧DP4) 4. 専門科目は、講義科目と演習・実習・実務科目に大別されるが、いずれのプログラムの講義・演習等でも、個人あるいはグループ単位での口頭発表、報告書(レポート)作成、討論、読書など学生の能動的・主体的な授業参加を求めるとともに双方向的な授業を進めることで、専門知識の獲得に加えて、自己表現、他者理解、コミュニケーション等の能力を養っている。(≧DP3.4) 5. 4年次には本プログラムにおいて卒業論文を書く卒業論文作成を、卒業論文は、共通教育と専門教育の集大成となるもので、1年次から4年次まで習得してきた基礎的教養と専門教育における学習成果を総合しながら、学生自らが課題やテーマを設定し、データ・資料・史料等を収集、分析、統括し、自己の見解を明確かつ論理的に表現していく能力の養成ができたかどうかを最終的に確認するのである。あわせて口頭試問では、自己の所説の説明に加え批評・異論に耳を傾けこれに柔軟に対応できる能力も評価される。</p> <p>【プログラムのCP】 1年次には、GS言語科目(英語)に加え初習言語(ドイツ語・フランス語など)を学び、本プログラムで専攻する欧米言語習得のための基礎固めを行う。2年次からは英語学・ドイツ語学・フランス語学の概説や英米文学・ドイツ文学・フランス文学の歴史などのプログラム専門科目(講義・演習科目)を組み合わせて履修することにより、言語学と文学研究全般の基礎知識を幅広く身につけると同時に、欧米言語文化学の理論的知識や方法論、あるいは比較・対照研究のあり方を習得する。加えて年次進行に合わせた習熟度を高めていくコミュニケーション系科目を通じて、各言語によるコミュニケーション能力のさらなる向上を図る。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A+B・C-D」を中心に資料収集と整理の技術を磨く。また、その資料をもとに意見を組み立て発表する能力を養い、自己の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。</p>	<p>コトバと文学の科学的探究にとどまる学系区分の言語のコミュニケーション能力をもつ。外国語に開かれた態度をもち、外国語のコミュニケーション能力をもち、外国語文化に開かれた態度をもち、外国語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。討論やプレゼンテーションの経験を読むことにより、意見を述べ能力を磨く。原典を講読することにより、翻訳では理解し難い異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。学問分野の知の集積に他、事象に対する多様な考え方をとらえ、人文学に関わる複眼的な見方を涵養する。</p>

プログラムのカリキュラム									
科目番号	科目名	履修の学年	学年	Q1	Q2	Q3	Q4		
42878	英語コミュニケーション2	英語表現の基礎知識を理解し、適切な表現を身につける。英語コミュニケーション能力を高める。	2~4		*				◎
21432	ドイツ語学概説A1	ドイツ語研究の考え方の基礎を身につける。	2~4	*					◎
21433	ドイツ語学概説A2	ドイツ語研究の考え方の基礎を身につける。	2~4		*				◎
21444	ドイツ語学概説B1	ドイツ語研究の考え方の基礎を身につける。	2~4			*			◎
21445	ドイツ語学概説B2	ドイツ語研究の考え方の基礎を身につける。	2~4				*		◎
21434	ドイツ文学史A1	ドイツ文学の歴史の流れを理解する。	2~4	*					◎
21434	ドイツ文学史A2	ドイツ文学の歴史の流れを理解する。	2~4		*				◎
42801	ドイツ文学史B1	ドイツ文学の歴史の流れを理解する。	2~4			*			◎
42802	ドイツ文学史B2	ドイツ文学の歴史の流れを理解する。	2~4				*		◎
42337	ドイツ語読解基礎1	ドイツ語読解の基礎力を身につける。	2~4	*					◎
42338	ドイツ語読解基礎2	ドイツ語読解の基礎力を身につける。	2~4		*				◎
42804	ドイツ語コミュニケーション初級1	ドイツ語コミュニケーション能力の基礎力を積み上げる。	2~4	*					◎
42905	ドイツ語コミュニケーション初級2	ドイツ語コミュニケーション能力の基礎力を積み上げる。	2~4		*				◎
42806	ドイツ語コミュニケーション初級3	ドイツ語コミュニケーション能力の基礎力を完成する。	2~4			*			◎
42907	ドイツ語コミュニケーション初級4	ドイツ語コミュニケーション能力の基礎力を完成する。	2~4			*			◎
42808	ドイツ語コミュニケーション初級5	ドイツ語コミュニケーション能力の基礎力を完成する。	2~4				*		◎
42909	ドイツ語コミュニケーション初級6	ドイツ語コミュニケーション能力の基礎力を完成する。	2~4				*		◎
42810	ドイツ語コミュニケーション中級1	ドイツ語コミュニケーション能力の中級の力をつける。	3~4	*					◎
42811	ドイツ語コミュニケーション中級2	ドイツ語コミュニケーション能力の中級の力をつける。	3~4		*				◎
42812	ドイツ語コミュニケーション中級3	ドイツ語コミュニケーション能力の中級の力をつける。	3~4			*			◎
42813	ドイツ語コミュニケーション中級4	ドイツ語コミュニケーション能力の中級の力をつける。	3~4			*			◎
42814	ドイツ語コミュニケーション中級5	ドイツ語コミュニケーション能力の上級の力を目指す。	3~4				*		◎
42815	ドイツ語コミュニケーション中級6	ドイツ語コミュニケーション能力の上級の力を目指す。	3~4				*		◎
42351	ドイツ語表現法1	ドイツ語の文章力を磨く。	3~4	*					◎
42352	ドイツ語表現法2	ドイツ語の文章力を磨く。	3~4		*				◎
42353	ドイツ語学演習A1	ドイツ語学演習A1	2~4	*					◎
42354	ドイツ語学演習A2	ドイツ語学演習A2	2~4		*				◎
42355	ドイツ語学演習B1	ドイツ語学演習B1	2~4	*					◎
42356	ドイツ語学演習B2	ドイツ語学演習B2	2~4		*				◎
42357	ドイツ語学演習C1	ドイツ語学演習C1	2~4	*					◎
42358	ドイツ語学演習C2	ドイツ語学演習C2	2~4		*				◎
42359	ドイツ語学演習A1	ドイツ語学演習A1	2~4	*					◎
42360	ドイツ語学演習A2	ドイツ語学演習A2	2~4		*				◎
42361	ドイツ語学演習B1	ドイツ語学演習B1	2~4	*					◎
42362	ドイツ語学演習B2	ドイツ語学演習B2	2~4		*				◎
42363	ドイツ語学演習C1	ドイツ語学演習C1	2~4	*					◎
42364	ドイツ語学演習C2	ドイツ語学演習C2	2~4		*				◎
42365	ドイツ文学演習A1	ドイツ文学演習A1	2~4	*					◎
42366	ドイツ文学演習A2	ドイツ文学演習A2	2~4		*				◎
42367	ドイツ文学演習B1	ドイツ文学演習B1	2~4	*					◎
42368	ドイツ文学演習B2	ドイツ文学演習B2	2~4		*				◎
42369	ドイツ文学演習C1	ドイツ文学演習C1	2~4	*					◎
42370	ドイツ文学演習C2	ドイツ文学演習C2	2~4		*				◎
42371	ドイツ文学演習D1	ドイツ文学演習D1	2~4	*					◎
42372	ドイツ文学演習D2	ドイツ文学演習D2	2~4		*				◎
42375	ドイツ文学演習A1	ドイツ文学演習A1	2~4	*					◎
42376	ドイツ文学演習A2	ドイツ文学演習A2	2~4		*				◎

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
プログラム名	欧米言語文化学プログラム

<p>学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)</p> <p>KUGS(金沢大学グローバルスタンダード)をふまえ、人文学類では次に挙げるすべての能力と資質を以て新たな情報や価値を創造し社会に貢献できる学生に学士(文学)の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 豊かな教養と課題発見能力 人間性と社会性に富む豊かな教養を有し、常に知的好奇心を持ち続け、人間や社会、環境をめぐる諸課題を自ら発見することができる。(≧KUGS1.5に対応) 社会的応用性を備えた専門性 各プログラムにおける専門的な学問内容と、文献読解にとどまらない固有の方法を、系統立てて理解・習得し説明できるとともに、それを活用して現代社会における多様な課題の具体的な解決に忍耐強く主体的に取り組んでいくことができる。(≧KUGS1.2.5に対応) 適切かつ主体的な情報収集と的確な自己表現の能力 多様な情報、文献、資料、史料の中から必要なものを適切かつ主体的に収集、分析、統合し、自らの見解や価値観を形成するとともに、明晰な論理構成能力と高い文章表現力で自己を説得的かつ的確に表現することができる。(≧KUGS3に対応) 多面的視野による他者理解と柔軟なコミュニケーション能力 多面的視野を持って、異なる文化や伝統も含んだ他者の多様な価値観や見解に対する高い関心と深い理解を有しており、日本語そして外国語を用いて異論を有する他者と柔軟かつ適切に意思の疎通を図ることができる。(≧KUGS4に対応) 	<p>プログラムのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)</p> <p>欧米言語文化学プログラムでは、人間の言語・文化・思想・歴史・芸術・社会・生活などについて探究する人文諸学の成果を学び、とりわけ英語・ドイツ語・フランス語を中心とした欧米言語文化学プログラムの専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような欧米言語文化学プログラムの学習成果を上げた者とする。</p>
---	---

<p>学類・プログラムのCP(カリキュラム編成方針)</p> <p>【学類のCP】 0)にかける能力と資質の育成を実現するために、以下のような教育課程の編成と実施の方針を決定する。 1. 学士課程4年間を通じて、KUGSに対応したGS科目と専門科目を体系的に履修し、学士課程教育の基礎となる幅広い豊かな教養を身につける。またGS言語科目(英語)のみならず、必ず初習言語をひとつ以上選択することで、外国語コミュニケーション能力、異文化への関心と理解力を養う。(≧DP1) 2. 1年次より人間社会学域GS科目と「人文学基礎科目」を履修し、前期では大学・学問論、ジェンダー論、文化概説、文学概論、異文化理解、法政基礎論、地域創造学、金融リテラシー等、人文科学、社会科学の基本的問題や方法論を、後期では人文諸学の基礎研究内容、研究手法をそれぞれ幅広く修め、人間社会学域および人文学類での専門教育における基礎的教養を身につける。(≧DP2) 3. 英語については、1年次でGS言語科目の履修を踏まえさらに2年次で学域GS言語科目、また、各プログラムの専門科目における英語演習を履修することで、継続的に英語運用能力の向上を図る。(≧DP4) 4. 専門科目は、講義科目と演習・実習・実務科目に大別されるが、いずれのプログラムの講義・演習等でも、個人あるいはグループ単位での口頭発表、報告書(レポート)作成、討論、読書など学生の能動的・主体的な探究参加を促すとともに双方向的な授業を進めることで、専門的知識の獲得に加えて、自己表現、他者理解、コミュニケーション等の能力を養っている。(≧DP3.4) 5. 4年次には本プログラムにおいて卒業論文を履修し卒業論文を作成する。卒業論文は、共通教育と専門教育の集大成となるもので、1年次から4年次まで習得してきた基礎的教養と専門教育における学習成果を総合しながら、学生自らが課題やテーマを設定し、データ・資料・史料等を収集、分析、読解し、自己の見解を明確かつ論理的に表現していく能力の養成ができたかどうかを最終的に確認するのである。あわせて口頭試問では、自己の所説の論拠に加え批判・異論に耳を傾けこれに柔軟に対応できる能力も評価される。 【プログラムのCP】 1年次には、GS言語科目(英語)に加え初習言語(ドイツ語・フランス語など)を学び、本プログラムで専攻する欧米言語習得のための基礎固めを行う。2年次からは英語学・ドイツ語学・フランス語学の概説や英文学・ドイツ文学・フランス文学の歴史などのプログラム専門科目(講義・演習科目)を組み合わせて履修することにより、言語学と文学研究全般の基礎知識を幅広く身につけると同時に、欧米言語文化学の理論的知識や方法論、あるいは比較・対照研究のあり方を習得する。加えて年次進行に合わせ習熟度を高めていくコミュニケーション系科目を通じて、各言語によるコミュニケーション能力のさらなる向上を図る。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B・C・D」を中心に資料収集と整理の技術を磨く。また、その資料をもとに意見を組み立て発表する能力を養い、自己の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。</p>	<p>プログラムの学習成果(○=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)</p> <p>コアと文学の科学的探究にとどまらず学際分野の知識及び方法論を理解する。</p> <p>外国事情に関心を持ち、外国語のコミュニケーション能力をもち、</p> <p>複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。</p> <p>ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</p> <p>討論やプレゼンテーションの経験を通じて、情報発信能力を鍛える。</p> <p>原典を講読することにより、翻訳では理解し難い異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。</p> <p>学問分野の知の集積に触れ、事象に対する多面的な考え方を知るとともに、人文学に隣接する複眼的な見方を涵養する。</p>
---	--

プログラムのカリキュラム									
科目番号	科目名	履修の学年	学年	Q1	Q2	Q3	Q4		
42377	ドイツ文学演習B1	ドイツ近現代文学の諸問題に主体的に取り組む。	2~4	*					△
42378	ドイツ文学演習B2	ドイツ近現代文学の諸問題に主体的に取り組む。	2~4		*				△
42379	ドイツ文学演習C1	ドイツ語圏の言語と文化の諸問題に主体的に取り組む。	2~4	*					△
42380	ドイツ文学演習C2	ドイツ語圏の言語と文化の諸問題に主体的に取り組む。	2~4		*				△
42381	ドイツ文学演習D1	ドイツ語圏の文化と社会の諸問題に主体的に取り組む。	2~4	*					△
42382	ドイツ文学演習D2	ドイツ語圏の文化と社会の諸問題に主体的に取り組む。	2~4		*				△
21436	フランス語学概説A1	フランス語学の基礎を学ぶ。全体像の概観から始める。フランス語の何が、どのような部分か、研究テーマになるのかという問題に對し、意識をもつようになること。語彙に注目する事から始める。	2~4	*				◎	◎
21437	フランス語学概説A2	フランス語学の基礎を学ぶ。フランス語の何が、どのような部分か、研究テーマになるのかという問題に對し、意識をもつようになること。語彙に注目する事から始める。	2~4		*			◎	◎
21446	フランス語学概説B1	フランス語学の基礎を学ぶ。と同時、言葉の問題とは何かを 継続的・発展的に考察していく習慣をつける。動詞と構文に焦点を	2~4			*		◎	◎
21447	フランス語学概説B2	フランス語学の基礎を学ぶ。と同時、言葉の問題とは何かを 継続的・発展的に考察していく習慣をつける。動詞の概念に注目す	2~4			*		◎	◎
42851	フランス文学史A1	中世から16世紀までのフランス文学の歴史的背景を確認し、その内的発展と文学創造の必要性を理解する。	2~4	*				◎	◎
42852	フランス文学史A2	17世紀から18世紀までのフランス文学の歴史的背景を確認し、その内的発展と文学創造の必要性を理解する。	2~4		*			◎	◎
42853	フランス文学史B1	19世紀のフランス文学の歴史的背景を確認し、その内的発展と文学創造の必要性を理解する。	2~4			*		◎	◎
42854	フランス文学史B2	20世紀のフランス文学の歴史的背景を確認し、その内的発展と文学創造の必要性を理解する。	2~4			*		◎	◎
42476	フランス語作文概説(基礎)1	フランス語の語彙や表現法の知識を習得する。	2~4			*		◎	◎
42479	フランス語作文概説(基礎)2	フランス語の発想で作文する能力を身につける。	2~4			*		◎	◎
42480	フランス語作文概説(中級)A1	自分が伝えたいことを複文構造のフランス語(関係節の使い方を中心として)で表現できるようになる。	3~4			*		◎	◎
42481	フランス語作文概説(中級)A2	自分が伝えたいことを複文構造のフランス語(様々な名詞節の使い方を中心として)で表現できるようになる。	3~4			*		◎	◎
42482	フランス語作文概説(中級)B1	自分が伝えたいことを複文構造のフランス語(時間的副詞節の使い方を中心として)で表現できるようになる。	3~4			*		◎	◎
42483	フランス語作文概説(中級)B2	自分が伝えたいことを複文構造のフランス語(仮定や条件、原因や理由を表す動詞の使い方を中心として)で表現できるようになる。	3~4			*		◎	◎
42458	フランス文学特殊演習A1	フランス語の易しい詩を原文で読み、韻文独特の形式上の規則や特徴・イメージを解釈する能力を身につける。	2~4	*				◎	◎
42459	フランス文学特殊演習A2	フランス語のやや難しい詩を原文で読み、韻文独特の形式上の規則や特徴・イメージを解釈する能力を身につける。	2~4		*			◎	◎
42480	フランス文学特殊演習B1	19世紀フランス語文学作品を読解し、その意義を知ることができる。	2~4			*		◎	◎
42461	フランス文学特殊演習B2	19世紀フランス語文学作品を読解し、その意義を知ることができる。	2~4			*		◎	◎
42863	フランス語コミュニケーション基礎1	フランス語の基本文法知識を確実に習得する。とりわけ、名詞・名詞限辞、形容詞、と基本文型を使用頻度の高い動詞の構文の習得。	2~4	*				◎	◎
42864	フランス語コミュニケーション基礎2	フランス語の基本文法知識を確実に習得する。とりわけ様々な時制(過去・現在・未来)の区分を示す表現の習得。	2~4		*			◎	◎
42865	フランス語コミュニケーション基礎3	習得したフランス語知識を駆使して、話言葉に良く登場する平易なフランス語を速読・多読できる能力を身につける。	2~4			*		◎	◎
42866	フランス語コミュニケーション基礎4	習得したフランス語知識を駆使して、平易なフランス語テキストを速読・多読できる能力を身につける。	2~4			*		◎	◎
42867	フランス語コミュニケーション基礎5	日常生活におけるフランス語コミュニケーション能力を養成する。自分自身のことを伝える表現を中心として。	2~4	*				◎	◎
42868	フランス語コミュニケーション基礎6	日常生活におけるフランス語コミュニケーション能力を養成する。そのためフランス語圏文化について学ぶ。	2~4		*			◎	◎
42869	フランス語コミュニケーション基礎7	日常生活におけるコミュニケーション能力を養成し、簡単な文章を書く表現力を養成する。DALF A1合格レベルを目指す。	2~4			*		◎	◎

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
プログラム名	欧米言語文化学プログラム

学類のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）	プログラムのディプロマ・ポリシー（学位授与方針）
<p>KUGS（金沢大学グローバルスタンダード）をふまえ、人文学類では次に挙げるすべての能力と資質を以て新たな情報や価値を創造し社会に貢献できる学生に学士（文学）の学位を授与する。</p> <p>1. 豊かな教養と課題発見能力 人間性や社会性に富む豊かな教養を有し、常に知的好奇心を持ち続け、人間や社会、環境をめぐる諸課題を自ら発見することができる。（※KUGS1.5に対応）</p> <p>2. 社会的責任を醸成した専門性 各プログラムにおける専門的な学習内容と、文献読解にとどまらない個々の方法を、系統立てて理解・習得し説明できるとともに、それを活用して現代社会における多様な課題の具体的な解決に忍耐強く主体的に取り組んでいくことができる。（※KUGS1.2.5に対応）</p> <p>3. 適切かつ主体的な情報収集と的確な自己表現の能力 多様な情報、文献、資料、史料の中から必要なものを適切かつ主体的に収集、分析、統合し、自らの見解や価値観を形成するとともに、明晰な論理構成能力と高い文章表現力で自己を説得的かつ的確に表現することができる。（※KUGS3に対応）</p> <p>4. 多面的視野による他者理解と柔軟なコミュニケーション能力 多面的視野を持って、異なる文化や伝統も含んだ他者の多様な価値観や見解に対する高い関心と深い理解を有しており、日本語そして外国語を用いて異論を有する他者とも柔軟かつ適切に意思の疎通を図ることができる。（※KUGS4に対応）</p>	<p>欧米言語文化学プログラムでは、人間の言語・文化・思想・歴史・芸術・生活などについて探究する人文諸学の成果を学び、とりわけ英語圏・ドイツ語圏・フランス語圏を中心とした欧米言語文化学プログラムの専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士（文学）の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような欧米言語文化学プログラムの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・プログラムのOP（カリキュラム編成方針）	プログラムの学習成果（◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目）
<p>【学類のOP】 1. 学類の教育目標と資質の育成を実現するために、以下のような教育課程の編成と実施の方針を策定する。 1. 学士課程4年間を通じて、KUGSに対応したGS科目や導入科目を体系的に履修して、学士課程教育の基盤となる幅広い豊かな教養を身につける。またGS言語科目（英語）のみならず、必ず初習言語をひとつ以上選択することで、外国語コミュニケーション能力、異文化への関心と理解力を養う。（※DP1） 2. 1年次より人間社会学域GS科目および人文学基礎科目を履修し、前期では大学・学問論、ジェンダー論、文化概説、文学概論、異文化理解、法政基礎論、地域創造学、金融リテラシー等、人文学、社会科学の基本的問題や方法論を、後者では人文諸学の基礎研究内容、研究手法をそれぞれ幅広く修め、人間社会学域および人文学域での専門教育における基礎的教養を身につける。（※DP2） 3. 英語については、1年次でのGS言語科目の履修を踏まえさらに2年次で学域GS言語科目、また、各プログラムの専門科目における英語履修を履修することで、継続的に英語運用能力の向上を図る。（※DP4） 4. 専門科目は、講義科目と演習・実習・実務科目に大別されるが、いずれのプログラムの講義・演習等でも、個人あるいはグループ単位での口頭発表、報告書（レポート）作成、討論、読書など学生の能動的・主体的な探究参加を促すとともに双方向的な探究を進めることで、専門知識の獲得に加えて、自己表現、他者理解、コミュニケーション等の能力を養っている。（※DP3.4） 5. 4年次には本プログラムにおいて卒業論文を通して卒業論文を作成する。卒業論文は、共通教育と専門教育の集大成となるもので、1年次から4年次まで習得してきた基礎的教養と専門教育における学習成果を総合しながら、学生自らが課題やテーマを設定し、データ・資料・史料等を収集、分析、読解し、自己の見解を明確かつ論理的に表現していく能力の養成ができたかどうかを最終的に確認するのである。あわせて口頭試問では、自己の所説の説明に加えて批評・批判・異論に耳を傾けこれに柔軟に対応できる能力も評価される。</p> <p>【プログラムのOP】 1. 学類では、GS言語科目（英語）に加えて初習言語（ドイツ語・フランス語など）を学び、本プログラムで専攻する欧米言語習得のための基礎固めを行う。2年次からは英語学・ドイツ学・フランス学等の概説や英文学・ドイツ文学・フランス文学の歴史などのプログラム専門科目（講義・演習科目）を組み合わせて履修することにより、言語学と文学研究全般の基礎知識を幅広く身につけると同時に、欧米言語文化学の理論的知識や方法論、あるいは比較・対照研究のあり方を習得する。加えて年次進行に合わせた習熟度を高めていくコミュニケーション系科目を通じて、各言語によるコミュニケーション能力のさらなる向上を図る。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B・C・D」を中心に資料収集と整理の技術を磨く。また、その資料をもとに意見を組み立て発表する能力を養い、自己の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。</p>	<p>コトバと文学の科学的探究にとどまらず学術分野の知識及び方法論を理解する。</p> <p>外国事情に関心を持ち、外国語のコミュニケーション能力をもち、複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。</p> <p>ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</p> <p>討論やプレゼンテーションの経験を通じて、意見発表能力を磨く。</p> <p>原典を講読することにより、前記では理解し難い異文化の特徴を理解し、学際的深化を実現する。</p> <p>学問的分野の知の集積に触れ、専攻に対する多面的な考え方をもち、人文学に隣接する複眼的な見方を涵養する。</p>

プログラムのカリキュラム

科目番号	科目名	履修の学習者	学年	Q1	Q2	Q3	Q4
42970	フランス語コミュニケーション基礎1	日常生活におけるコミュニケーション能力を養成し、フランス語圏文化に対する理解を深め、それを表現する能力を養成する。DALF A1合格レベルを目指す。	2~4				*
42971	フランス語コミュニケーション中級1	日常的なテーマに関してフランス語による会話ができるようになること、そのための基礎表現力を習得する。	3~4	*			
42972	フランス語コミュニケーション中級2	日常的なテーマに関して、フランス語による会話後2級の口頭試験レベル。	3~4		*		
42973	フランス語コミュニケーション中級3	日常的なテーマに関してフランス語での発話力を養成する。自らの見解を表明できるようにする。	3~4			*	
42974	フランス語コミュニケーション中級4	日常的なテーマに関してフランス語での発話力を養成する。異文化への理解を深める。CEFR B1レベルを目指す。	3~4				*
42975	フランス語コミュニケーション中級5	現代フランス事情に接しながら、フランス語の高度な理解力、自然なフランス語によるコミュニケーション能力を磨き、現場で役に立つ形で文法を復習できる。フランス語と英語をできるだけ関連付けて学び、相乗効果で両言語の能力を向上させる。	3~4	*			
42986	フランス語コミュニケーション中級6	現代フランス事情に接しながら、フランス語の高度な理解力、自然なフランス語によるコミュニケーション能力を磨き、現場で役に立つ形で文法を復習できる。フランス語と英語をできるだけ関連付けて学び、相乗効果で両言語の能力を向上させる。	3~4		*		
42987	フランス語コミュニケーション中級7	現代フランス事情に接しながら、フランス語の高度な理解力、自然なフランス語によるコミュニケーション能力を磨き、現場で役に立つ形で文法を復習できる。フランス語と英語をできるだけ関連付けて学び、相乗効果で両言語の能力を向上させる。	3~4			*	
42976	フランス語コミュニケーション中級8	現代フランス事情に接しながら、フランス語の高度な理解力、自然なフランス語によるコミュニケーション能力を磨き、現場で役に立つ形で文法を復習できる。フランス語と英語をできるだけ関連付けて学び、相乗効果で両言語の能力を向上させる。	3~4				*
42981	フランス語学演習 A1	ことばの分析の方法を学び、実践する。言語学入門。フランス語の特徴の一分野に集中し、言葉の問題の分析ができるようになる能力を身につける。	2~4	*			
42982	フランス語学演習 A2	ことばの分析の方法を学び、実践する。フランス語の特徴の一分野に集中し、言葉の問題の分析ができるようになる能力を身につける。	2~4		*		
42983	フランス語学演習 B1	フランス語の特徴の一分野に集中し、言葉の問題の分析ができるようになる能力を身につける。	2~4			*	
42984	フランス語学演習 B2	フランス語の特徴の一分野に集中し、言葉の問題の分析ができるようになる能力を身につける。	2~4				*
42989	フランス語文法演習 A1	ことばの分析の方法を学び、実践する。言語学入門。フランス語の特徴の一分野に集中し、言葉の問題の分析ができるようになる能力を身につける。	2~4	*			
42980	フランス語文法演習 A2	ことばの分析の方法を学び、実践する。言語学入門。フランス語の特徴の一分野に集中し、言葉の問題の分析ができるようになる能力を身につける。	2~4		*		
42979	フランス語文法演習 B1	ことばの分析の方法を学び、実践する。フランス語の特徴の一分野に集中し、言葉の問題の分析ができるようになる能力を身につける。	2~4			*	
42980	フランス語文法演習 B2	ことばの分析の方法を学び、実践する。フランス語の特徴の一分野に集中し、言葉の問題の分析ができるようになる能力を身につける。	2~4				*
42987	フランス文学演習 A1	フランス文学理解をめぐる諸問題とアプローチの方法を演習発表を通じて考える。	2~4	*			
42988	フランス文学演習 A2	フランス文学理解をめぐる諸問題とアプローチの方法を演習発表を通じて考える。	2~4		*		
42985	フランス文学演習 B1	フランス文学理解をめぐる諸問題とアプローチの方法を演習発表を通じて考える。	2~4			*	
42986	フランス文学演習 B2	フランス文学理解をめぐる諸問題とアプローチの方法を演習発表を通じて考える。	2~4				*
42955	フランス文学分析演習 A1	フランス文学を読むとはどういうことかを、表現形式、イメージ、歴史的・文化的背景などに注目しながら考察する。	2~4	*			
42956	フランス文学分析演習 A2	フランス文学を読むとはどういうことかを、表現形式、イメージ、歴史的・文化的背景などに注目しながら考察する。	2~4		*		

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
プログラム名	欧米言語文化学プログラム

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	プログラムのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>KUGS(金沢大学グローバルスタンダード)をふまえ、人文学類では次に挙げるすべての能力と資質を以て新たな情報や価値を創造し社会に貢献できる学生に学士(文学)の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 豊かな教養と課題発見能力 人間性や社会に富む豊かな教養を有し、常に活発な好奇心を持ち続け、人間や社会、環境をめぐる諸課題を自ら発見することができる。(※KUGS1.5に対応) 社会的応用性を備えた専門性 各プログラムにおける専門的な学習内容と、文献読解にとどまらない個々の方法を、系統立てて理解・習得し説明できるとともに、それを活用して現代社会における多様な課題の具体的な解決に忍耐強く主体的に取り組んでいくことができる。(※KUGS1.2.5に対応) 適切かつ主体的な情報収集と的確な自己表現の能力 多様な情報、文書、資料、史料の中から必要なものを適切かつ主体的に収集、分析、統合し、自らの見解や価値観を形成するとともに、明晰な論理構成能力と高い文章表現力で自己を説得的かつ的確に表現することができる。(※KUGS3に対応) 多面的視野による他者理解と柔軟なコミュニケーション能力 多面的視野を持って、異なる文化や伝統も含んだ他者の多様な価値観や見解に対する高い関心と深い理解を有しており、日本語そして外国語を用いて異論を有する他者と柔軟かつ適切に意思の疎通を図ることができる。(※KUGS4に対応) 	<p>欧米言語文化学プログラムでは、人間の言語・文化・思想・歴史・芸術・社会・生活などについて探究する人文学の成果を学び、とりわけ英語圏・ドイツ語圏・フランス語圏を中心とした欧米言語文化学プログラムの専門知識を有し、さらには人文学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような欧米言語文化学プログラムの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・プログラムのCP(カリキュラム構成方針)	プログラムの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
<p>【学類のCP】 1. 学類のCPは、学類の育成を実現するために、以下のような教育課程の編成と実施の方針を決定する。 1. 学類課程4年間を通じて、KUGSに対応したGS科目や専攻科目を体系的に履修して、学士課程教育の基礎となる幅広い豊かな教養を身につける。またGS言語科目(英語)のみならず、必ず初級言語をひとつ以上選択することで、外国語コミュニケーション能力、異文化への関心と理解力を養う。(※DP1) 2. 1年次より人間社会学域GS科目と人文学基礎科目を履修し、前期では大学・学際論、ジェンダー論、文化概説、文学概説、異文化理解、法政基礎論、地域創造学、金融リテラシー等、人文学、社会科学の基本的問題や方法論を、後者では人文学の基礎研究、研究法、そして基礎知識をそれぞれ幅広く修得し、人間社会学域および人文学域での専門教育における基礎的教養を身につける。(※DP2) 3. 英語については、1年次でのGS言語科目の履修を踏まえさらに2年次で学域GS言語科目、また、各プログラムの専門科目における英語演習を履修することで、継続的に英語運用能力の向上を図る。(※DP4) 4. 専門科目は、講義科目と演習・実習・実務科目に大別されるが、いずれのプログラムの講義・演習等でも、個人あるいはグループ単位での口頭発表、報告書(レポート)作成、討論、読書など学生の能動的・主体的な探究参加を求めるとともに双方向的な探究を進めることで、専門的知識の獲得に加えて、自己表現、他者理解、コミュニケーション等の能力を養っている。(※DP3.4) 5. 4年次には本プログラムにおいて卒業論文を履修し卒業論文を作成する。卒業論文は、共通教育と専門教育の集大成となるもので、1年次から4年次まで習得してきた基礎的教養と専門教育における学習成果を総合しながら、学生自らが課題やテーマを設定し、データ・資料・史料等を収集、分析、読解し、自己の見解を明確かつ論理的に表現していく能力の養成ができたかどうかを最終的に確認するのである。あわせて口頭試験では、自己の所説の説明に加えて批評・異論に耳を傾けこれに柔軟に対応できる能力も評価される。 【プログラムのCP】 1年次には、GS言語科目(英語)に加えて初級言語(ドイツ語・フランス語など)を学び、本プログラムで専攻する欧米言語習得のための基礎固めを行う。2年次からは英語学・ドイツ学・フランス語学の概説や英米文学・ドイツ学・フランス文学の歴史などのプログラム専門科目(講義・演習科目)を組み合わせて履修することにより、言語学と文学研究全般の基礎知識を幅広く身につけると同時に、欧米言語文化学の理論的知識や方法論、あるいは比較・対照研究のあり方を習得する。加えて年次進行に合わせた習熟度を高めていくコミュニケーション系科目を通じて、各言語によるコミュニケーション能力のさらなる向上を図る。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B・C・D」を中心に資料収集と整理の技術を磨き、また、その資料をもとに意見を組み立て発表する能力を養い、自己の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。</p>	<p>コトバと文学の科学的探究にとどまらず、外国語のコミュニケーション能力をもち、外国語のコミュニケーション能力をもち、複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。討論やプレゼンテーションの経験を通じて、意見発表能力を鍛える。原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学際的深化を実現する。学問的視野の知の集積に他れ、専攻に対する多様な考え方を知らるとともに、人文学に隣接する複眼的な見方を涵養する。</p>

プログラムのカリキュラム

科目番号	科目名	履修の学年	学	Q	Q	Q	Q
		学生	年	1	2	3	4
42881	フランス文学分析演習 B1		2~4			*	
42882	フランス文学分析演習 B2		2~4			*	
31005	卒業論文演習A		4	*			
31006	卒業論文演習B		4		*		
31007	卒業論文演習C		4			*	
31008	卒業論文演習D		4			*	
31003	卒業論文		4			*	*
11057	人文学序観A		1	*			(*)
11058	人文学序観B		1		*		(*)
11059	人文学序観C		1		(*)		*
11080	人文学序観D		1			(*)	*
11063	現代社会・人間学入門		1~4		*		
11064	哲学の起源		1~4				(*)
11065	社会情報学A		1~4	*			
11066	社会情報学B		1~4		*		
11067	ジェンダーと社会A		1~4			*	
11068	ジェンダーと社会B		1~4			*	
42621	知覚・認知心理学A		2-4				
42622	知覚・認知心理学B		2-4				
42623	学習・言語心理学A		2-4				
42624	学習・言語心理学B		2-4				
42625	感情・人格心理学A		2-4				

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
プログラム名	欧米言語文化学プログラム

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	プログラムのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>KUGS(金沢大学グローバルスタンダード)をふまえ、人文学類では次に挙げるすべての能力と資質を以て新たな情報や価値を創造し社会に貢献できる学生に学士(文学)の学位を授与する。</p> <p>1. 豊かな教養と課題発見能力 人間性と社会性に富む豊かな教養を有し、常に知的好奇心を持ち続け、人間や社会、環境をめぐる諸課題を自ら発見することができる。(≒KUGS1.5に対応)</p> <p>2. 社会的応用性を備えた専門性 各プログラムにおける専門的な学問内容と、文献読解にとどまらない個々の方法を、系統立てて理解・習得し説明できるとともに、それを活用して現代社会における多様な課題の具体的な解決に忍耐強く主体的に取り組んでいくことができる。(≒KUGS1.2.5に対応)</p> <p>3. 適切かつ主体的な情報収集と的確な自己表現の能力 多様な情報、文献、資料、史料の中から必要なものを適切かつ主体的に収集、分析、統合し、自らの見解や価値観を形成するとともに、明晰な論理構成能力と高い文章表現力で自己を説得的かつ的確に表現することができる。(≒KUGS3に対応)</p> <p>4. 多面的視野による他者理解と柔軟なコミュニケーション能力 多面的視野を持って、異なる文化や伝統も含んだ他者の多様な価値観や見解に対する高い関心と深い理解を有しており、日本語そして外国語を用いて異論を有する他者と柔軟かつ適切に意思の疎通を図ることができる。(≒KUGS4に対応)</p>	<p>欧米言語文化学プログラムでは、人間の言語・文化・思想・歴史・芸術・社会・生活などについて探究する人文諸学の成果を学び、とりわけ英語圏・ドイツ語圏・フランス語圏を中心とした欧米言語文化学プログラムの専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような欧米言語文化学プログラムの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・プログラムのCP(カリキュラム構成方針)	プログラムの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
<p>【学類のCP】 D1にかかげる能力と資質の育成を実現するために、以下のような教育課程の編成と実施の方針を策定する。</p> <p>1. 学士課程4年間を通じて、KUGSに対応したGS科目や導入科目を体系的に履修して、学士課程教育の基盤となる幅広い豊かな教養を身につける。またGS言語科目(英語)のみならず、必ず初習言語をひとつ以上選択することで、外国語コミュニケーション能力、異文化への関心と理解力を養う。(≒DP1)</p> <p>2. 1年次より人間社会学域GS科目と人文学基礎科目を履修し、前期では大学・学問論、ジェンダー論、文化概説、文学概説、異文化理解、法政基礎論、地域創造学、金融リテラシー等、人文科学、社会科学の基本的問題や方法論を、後者では人文諸学の基礎研究内容、研究法、そして基礎知識をそれぞれ幅広く修得し、人間社会学域および人文学類での専門教育における基盤的教養を身につける。(≒DP1.2)</p> <p>3. 英語については、1年次でのGS言語科目の履修を踏まえさらに2年次で学域GS言語科目、また、各プログラムの専門科目における英語演習を履修することで、継続的に英語運用能力の向上を図る。(≒DP4)</p> <p>4. 専門科目は、講義系科目と演習・実習系科目に大別されるが、いずれのプログラムの講義・演習等でも、個人あるいはグループ単位での口頭発表、報告書(レポート)作成、討論、読書など学生の能動的・主体的な授業参加を求めるとともに双方向的な授業を進めることで、専門知識の獲得に加えて、自己表現、他者理解、コミュニケーション等の能力を養っている。(≒DP3.4)</p> <p>5. 4年次には全プログラムにおいて卒業論文演習を通して卒業論文を作成する。卒業論文は、共通教育と専門教育の集大成となるもので、1年次から4年次まで学習してきた基礎的教養と専門教育における学習成果を総合しながら、学生自らが課題やテーマを設定し、データ・資料・史料等を収集、分析、読解し、自己の見解を明確かつ論理的に表現していく能力の養成ができたかどうかを最終的に確認するのである。あわせて口頭試問では、自己の所説の説明に加えて批評・批判・異論に耳を傾けこれに柔軟に対応できる能力も評価される。</p> <p>【プログラムのCP】 1年次には、GS言語科目(英語)に加えて初習言語(ドイツ語・フランス語など)を学び、本プログラムで専攻する欧米言語習得のための基礎固めを行う。2年次からは英語学・ドイツ語学・フランス語学の概説や英米文学・ドイツ文学・フランス文学の歴史などのプログラム専門科目(講義・演習科目)を組み合わせて履修することにより、言語学と文学研究全般の基礎知識を幅広く身につけると同時に、欧米言語文化学の理論的知識や方法論、あるいは比較・対照研究のあり方を習得する。加えて年次進行に合わせた習熟度を高めていくコミュニケーション系科目を通じて、各言語によるコミュニケーション能力のさらなる向上を図る。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A+B・C」を中心に資料収集と整理の技術を磨き、また、その資料をもとに意見を組み立て発表する能力を養い、自己の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。</p>	<p>コトバと文学の科学的探究に意欲を持ち、外国語のコミュニケーション能力をもち、複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。</p> <p>ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報の収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</p> <p>討論やプレゼンテーションの経験を通じて、自らの意見発表能力を磨く。</p> <p>原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。</p> <p>学問的分野の知の集積に勉め、専攻に対する多様な考え方を有するとともに、人文学に隣接する複眼的な見方を涵養する。</p>

プログラムのカリキュラム									
科目番号	科目名	履修の学年	学年	Q1	Q2	Q3	Q4		
42826	感情・人格心理学B	感情心理学に関する理論や実証的研究が理解できるようにする。	2-4						
41475	古代文明論	世界各地の古代文明の成立・発展・衰退の過程について、考古資料、建築資料、図像資料、文学資料などを駆使して研究する方法を学ぶ。	2年		*				
11069	北陸の考古学	北陸地方の主要な史跡について学び、考古学的に北陸地方の歴史を復元できるようにする。	2年		*				
11070	宗教芸術論	おもに、キリスト教・仏教の芸術について、それぞれの基本的知識と、両者の影響、それを生み出す文化的・社会的背景に関する知識を修得する。	2年		*				
11071	イメージを読み解く	人間がこれまでにも生み出したさまざまなイメージを手がかりに、人間の持つ普遍性や、地域や時代に応じた異なる文化のあり方を修得する。	2年		*				
11072	グローバルヒストリー	一面史の枠を超えた、グローバルな視点で歴史を考察する力を養う。	2		*				
11078	歴史学と現在1	戦後日本(戦後直後から高度経済成長期まで)の歴史学を学ぶことを通じて、歴史学の意味を理解する。	1						
11079	歴史学と現在2	戦後日本(高度経済成長期以降)の歴史学を学ぶことを通じて、歴史学の意味を理解する。	1						
41975	日本語学講義1	・日本語の言語構造について、個別の問題の探求を通じて、その基本的特徴を理解する。 ・言語の現象についての基本的な理解を身につける。	2,3,4	(*)	(*)	*	(*)	◎	○
11073	日本の物語と語り物	・日本文学史を貫通する問題や同時代の広がりの中でジャンルを横断して看取される共通点を取り上げて論議・追求することができる。	2,3,4	(*)	(*)	*	(*)	◎	○
11074	日本文学の近代	・近代文学と社会の関係に注意を払い、論理的読解ができる。畜養の範囲に手前で注意を払い、注釈的読解ができる。日本近代の問題について知見を深めることができる。	2,3,4	*	(*)	(*)	(*)	◎	○
11075	日本文学とメディア	・近代文学と社会の関係に注意を払い、論理的読解ができる。畜養の範囲に手前で注意を払い、注釈的読解ができる。社会の問題について知見を深めることができる。	2,3,4			*		◎	○
11076	中国の言語文化A	中国の言語と文化について理解を深め、中国研究の方法論を習得する。	2			*		◎	○
11077	中国の言語文化B	中国の言語と文化について理解を深め、中国研究の方法論を習得する。	2			*		◎	○
21401	言語研究入門	語学研究に取り組むための基礎的知識と基本的な方法論を習得する。	2~4		*			◎	○
21402	文学研究入門	文学研究に取り組むための基礎的知識と基本的な方法論を習得する。	2~4		*			◎	○
21416	比較文学入門	比較文学研究に取り組むための基礎的知識と基本的な方法論を習得する。	2~4			*		◎	○
21417	言語認知科学入門	・認知科学における言語の位置付けを理解する。 ・認知科学を学ぶ上で基礎となる心理学の知識を学ぶ。	2~4			*		◎	○

※ (*)は年度によって開講時期が異なることを示します。